ペットの飼い方 注意情報

飼う前に、ちょっと待った！～うさぎ編～

犬や猫に次いで飼育数の多い哺乳類、うさぎ。
室内で手軽に飼えるペットとして人気ですが、その一方で飼育放棄などの数も増えています。

ミニウサギはミニじゃない!?

ペットショップでよく見かける「ミニウサギ」。その名前から身体の小さいうさぎの種類と思いがちですが、実際は雑種の総称です。雑種のため個体差が大きく、成長すると体長は約26～40cm、体重は約1.5～3.5kgほどになります。

▲どちらも同じ「ミニウサギ」。

意外と高額な飼育費用

ケージ・えさ皿・給水ボトル・トイレなどの初期費用、えさ・牧草・トイレ砂などの消耗品費、ペット保険に加入する場合は更に保険料がプラスされます。

その他に暑さ寒さ対策の費用（エアコン、ヒートマットなど）や、病気になった時の治療費なども掛かります。

ふわふわの抜け毛

うさぎにも換毛期があり、主に春と秋に毛が生え変わります。細く柔らかい毛が大量に抜けるため、掃除も大変。また、うさぎの「毛球症」にも気をつける必要があります。「毛球症」とは、飲み込んでしまった毛がおなかの中に溜まって毛玉を作り、おなかの動きを悪くしてしまう病気のことです。換毛期には人間にもアレルギー症状が出ることもありますので、この時期には特に丁寧なブラッシングと掃除、換気が大切です。

室内散歩とかじる行為

うさぎの運動不足解消のため室内で散歩を行う際は、電源コードなどかじられて困るものはあらかじめ移動させるかカバーをつけておく、又は、行動範囲を制限するなどの対策が必要です。うさぎは何でもかじる性質がありますので、ケージから出しているときは目を離さないようにしましょう。

うさぎの寿命は約5～10年と言われていますが、それ以上生きる長寿のうさぎも増えています。最期までめんどうを見られるかどうか、飼う前に考えてほしいと思います。（atk）

▲じっくり信頼関係を深めればなついてくれることも。

インタビュー

センターから譲渡されたワンコ。
その後、どうしていますか？

家族に迎えて

出会えて幸せ ～ハゲハゲも模様だと思いました～

▲仲良し６人家族。モモちゃんに癒される毎日です。

▲幸せすぎる毎日だワン！

最初は犬に興味もなく、たまたま入ったペットショップで初めて触れて、「かわいい」と思ったという黒田政則さんご一家。その後、京都にも愛護センターがあることを知り、センターで写真を見たモモちゃんにひとめぼれ。帰宅後も「会いたい！触りたい！」との思いが大きくなったそうです。脱毛がひどく甲状腺の病気を治療中でしたが「そんなハゲハゲも模様だと思いました」と笑顔で話してくださいました。

病気や亡くなったときなどを考え迷われたそうですが「初めて触れたときの愛情が色々な不安を払拭してくれました」とモモちゃんをおうちに迎えることに。

困ったこと、不安なことがあるとセンターに相談してアドバイスをもらい、安心されたそうです。散歩が大好きで、子どもが苦手なモモちゃんだけど、泣いている子を見つけたら、近くに寄っていってスリスリ、モモちゃんがいることで声をかけられ、今までにない人とのつながりが広がったそうです。

おうちでも子供がケンカしたり、怒られて泣いているとそばに来て寄り添ってくれる優しいモモちゃん。しつけもしたことがなく、あまり怒ってもだめと聞いていたので、人間にとって都合の悪いことをしたときも怒らず、わざとやったことでもなく理由があってのことだと考えてくださるとのことでとてもうれしくなりました。

センターにいたときから治療してきた甲状腺の病気も改善し、今はすこぶる元気！

愛情をいっぱいもらって、毛もふさふさになり見違えるほどの笑顔あふれるかわいい表情をするモモちゃん。

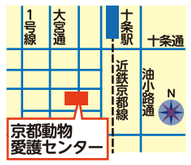
大切な家族に出会えてよかったね。（yoshi）

編集後記

犬や猫を、今までは単にかわいいと思って飼っていましたが、特集記事を書きながら、あらためて「人と動物の共生」ということに思いをはせることができました。私個人は人生の半分以上をペットの犬と共に暮らしてきました。その間、死んでしまった犬もいましたし、介護を経験した犬もいました。全ての犬や猫が飼い主さんと共に幸せになれるよう祈るばかりです。（Junko）

本紙は“京都市動物愛護事業推進基金（人と動物が共生できるまちづくり基金）”からも出資しています。動物愛護事業推進基金に寄附していただいた方のうち、希望者はホームページにて公開しており、ふるさと納税の適用も可能です。なお、寄附の方法についても、こちらのホームページでご覧いただけます。

京都動物愛護センター　検索



センターへのアクセス

- 近鉄十条駅から徒歩５分
- 京都市営地下鉄烏丸線 十条駅から徒歩15分
- 京都市営バス 十条大宮停留所から徒歩5分

※無料駐車場はございません

〒601-8103
京都市南区上鳥羽仏現寺町11番地
電話：075-671-0336
FAX：075-671-0338
開所時間：午前9時～午後5時
休所日：木曜日（祝日の場合は翌平日）
年末年始

京都動物愛護センター
マスコットキャラクターの
LINEスタンプはこちらから
↓↓

発行：京都動物愛護センター　平成31年2月20日

京都動物愛護センター 機関紙

愛ランド通信

～人と動物の共生を目指して～　平成30年度冬号

▼京都府が実施する「動物愛護教室」で活躍しているうさぎ。
子供たちはうさぎの心音を聞いたり、ぬくもりを感じることで小さな命を実感します。

特集 ペットという命とともに

「終生飼養」ということ

動物愛護管理法では、動物の飼い主は、その動物が命を終えるまで適切に飼養する「終生飼養」に努めなければならないと定められています。また、『犬の十戒』として知られている詩の最初にも、「私の寿命は、10年から15年。あなたとのどのような別れも私にはつらいことです。私を買う（飼う）前に、どうかそのこと覚えていてください。」とあります。ただかわいいからとか、子どもにせがまれたからというだけではなく、動物を飼い始めるときには、最期まで飼い続ける覚悟を持ってください。犬や猫は10年から20年の寿命があります。動物も老齢になるといろいろな病気になったり、介護が必要となることもあります。誰もがいらなくなったら「捨てる」とは思っていないはずですが、不慮の事態や自分自身の健康状態、生活環境も変化する可能性があります。飼い始める前にもう一度よく考えてみてください。

▲介護中の犬に寄り添う同居犬①

京都動物愛護センターに収容される犬や猫

犬は、平成28年度には247頭、平成29年度には204頭、猫は犬よりはるかに多く、平成28年度には1,381匹、平成29年度には1,199匹が収容されています。

犬や猫がセンターに収容される経緯には、飼い主不明の犬猫の保護（野犬を含む。）や飼い主の飼育放棄などがあります。収容後、飼い主が判明し、返還される例もあります。平成29年度には、京都市で犬23頭、猫4匹が、京都府下で犬30頭、猫7匹が返還されています（京都府下は保健所で返還しているため、センターの収容数には含まれていません。）。大事なペットがいなくなっても見つかるように、常に鑑札・迷子札を着ける、マイクロチップを装着するなどの対策を心がけてください。また、猫は室内飼育しましょう。

収容された犬のほとんどが成犬からシニア期に入った状態で、中には持病を抱えた犬もいますが、適切な治療を受け、元気に新しい飼い主さんを待っています。ボランティアスタッフも、犬のお世話に携わっています。また、猫では、ほとんどが野良猫の産み落とした子猫で、健康で、ある程度発育してからの譲渡となります。譲渡対象となった猫はボランティアスタッフが猫舎の管理、猫との遊びやコミュニケーションを行っており、社会化や、譲渡後の飼育に問題が生じないように努力しています。

飼い主の飼育放棄の理由としては、犬も猫も飼い主の体調不良や死亡が最も多く、猫はこれに加えて計画外の繁殖が挙げられます。飼育放棄については、センターでは安易に引き取るのではなく、やむを得ない事情に限り、最終手段として引き取っています。

年々、犬猫の収容数は減少傾向にありますが、まだまだ多いと言わざるを得ません。

特集 ペットという命とともに

殺処分について

センターでは、収容した犬について、譲渡適正があると判断されれば期間を定めず飼育し、必要に応じてトレーナーの監修の下、問題行動が少なくなるよう訓練しています。

しかし、きわめて攻撃性が強いと判断される場合、治療困難な重病やけが、また、収容限界を超えた場合などには、やむを得ず、獣医師が一頭ずつ、できる限り苦痛を与えないように最期をみとっています。殺処分にならなくても、収容中に死亡してしまう犬もいます。

猫では収容数が非常に多く、特に繁殖期には収容能力を大きく超えて保護されることがあります。しかも、ほとんどが生まれて間もない子猫で、収容中に死んでしまうことは珍しくありません。自力で餌を食べられる週齢の子猫だけでも収容限界を超えてしまうことがあり、殺処分をせざるをえないことがあります。ただ、猫の収容数の減少や、子猫の一時預り在宅ボランティアの協力などによる譲渡数の増加に伴い、殺処分数は減少しつつあります。

▲目が見えませんが、なに不自由なく暮らしています

譲渡について

譲渡対象となった犬猫の多くは新しい飼い主さんのもとで暮らすこととなりますが、犬では年齢や体の大きさの条件から、譲渡が進まないこともしばしばあります。

センターでは収容犬を紹介する譲渡会を毎月開催しています。また、猫は猫舎の様子を外から見学できるようにしています。ホームページから譲渡を待っている犬や猫の情報を知ることもできます。犬や猫を飼いたいと思われる方は、ペットショップだけではなくセンターの犬や猫との出会いも考えてみてください。譲渡希望者には随時案内をしています。

ただし、譲渡時には、希望される方が適切な飼育ができるかどうか、確認させていただいています。また、譲渡後も問題があれば、センターで対応できるよう、譲渡先を京都府内に限定しています。譲渡を受けた飼い主さんを対象に、飼い主交流会やしつけ方相談等のアフターフォローの機会も設けており、困ったことがあれば、随時相談にも応じています。

殺処分ゼロということ

殺処分ゼロとは、全ての犬や猫を際限なく保護し、収容し続けることではありません。それではセンターそのものが多頭飼育崩壊してしまいます。私たちが動物の『命』と共生するということをしっかりと見つめなおすことによって、安易な飼育放棄や計画外の繁殖が減り、収容される動物の数そのものが減少し、譲渡が増えていくことが大切です。

そのためには、飼い主は終生飼養の原則を心に刻み、避妊・去勢手術を行うことが大事です。収容される動物も、本当は温かい家で、飼い主とともに穏やかに暮らすことを望んでいるはずです。また、保護された犬・猫を迎え入れることが特別なことではなく、当たり前になっていくことが望まれます。

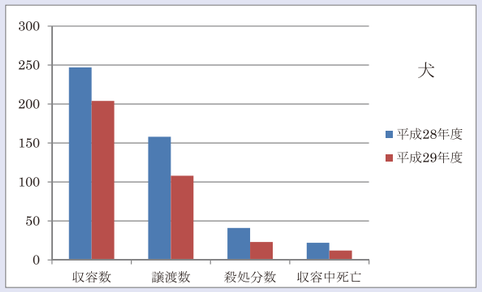
我々人間の意識が変わらなければ、本当の意味での殺処分ゼロは達成できません。

また、平成30年は本当にいろいろな災害がありました。災害時の対応もペットの『命』を一緒に守るという視点で考える必要があるでしょう。(Junko)

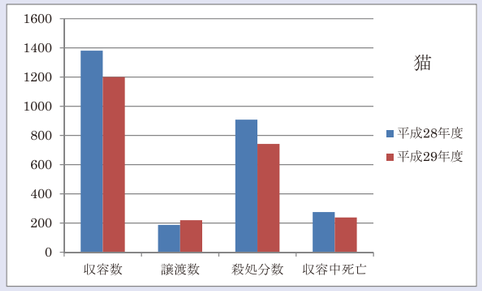
▲介護中の犬に寄り添う同居犬②

▲介護前はこんなに元気。16歳で亡くなりました

犬猫の収容数と譲渡、殺処分、収容中の死亡数



	収容数	譲渡数	殺処分数	収容中死亡
平成28年度	247	158	41	22
平成29年度	204	108	23	12



	収容数	譲渡数	殺処分数	収容中死亡
平成28年度	1381	187	908	277
平成29年度	1199	219	742	238

センターでこんなことやってます！

毎月開催しています！ 犬の譲渡会

新しい飼い主さんを待っている犬達に会いに来てください

「ペットと一緒に暮らしてみたい」と言う気持ちを少しでもお持ちの方。気になってた・ちょっと見学だけ～そんな方も大歓迎です。

- 毎月第2土曜日 13時～15時　ふれあい室にて（開催日は変更されることがあります。）
- 犬の譲渡には、いくつかの条件があります。ご見学頂いた当日に譲り渡すことはできません。
- 譲渡会だけではなく、譲渡のお申込みは随時受け付けております。
- お問い合わせは、京都動物愛護センターまでお電話ください。(☎075-671-0336、木曜日休所)

▲ごあいさつも堂々のマットくん

▲オヤツにくぎ付けのえいじぃくん

～現地レポート～『犬の譲渡会』9月8日

雨予報の中、時間前には数組のご家族が来られてました。来て頂いた、ご家族にお話しを伺ってみました。

・「以前も雑種の野良犬を飼ってたので～」
・「里親募集で検索してたら、こちらのホームページを見つけたので初めて来ました 」など皆さん同じようなお考えでした。

当日は野犬で保護された『フクくん』『リンちゃん』『ランちゃん』の3頭が譲渡会デビューの日でした。慣れない部屋に知らない人がいるので緊張していたかな。

様々な事情でセンターに来たワンちゃんたち。それぞれの性格や収容された経緯を知るために、譲渡会に足を運んでくださったご家族の真剣な思いが伝わってきて嬉しかった～。

譲渡会で、全てのワンちゃんに良い出会いがありますように。(5期山本)

▲今日は別々のお部屋で寂しいよ～

一番落ちついていたフクくん

▲リンちゃんとランちゃん

ボランティア 犬猫数珠つなぎ 一緒に歩む大切な家族

猫と出会って人生が変わった!?

ボランティア3期生 仲野 梓＆ハル(♀)、あんみつ(♀)

ハル

「出会い」

ハルは9年前、あんみつは5年前に家の近くにひょっこり現れました。ハルはまだ子猫の面影があり、あんみつは片手に乗るほどの小さな毛玉でした。2匹ともひどい猫風邪で、外での生活が無理と感じ、わが家へ迎えました。はじめての猫であるハルとの暮らしはわからないことだらけ。何が言いたいの？何が不満なの？と悩むことばかりでした。好きな食べ物や遊び、苦手なことなど、ひたすら観察して、発見する日々でした。でも、その小さな喜びを積み重ねていくことに幸せを感じ、気が付けば、かけがえのない存在となっていました。あんみつは、エネルギーの塊のような猫。天真爛漫でマイペースな甘えっ子です。そしてハルにとってあんみつは、いつまでたっても「小さな子猫」だったので、もう‥わが家で最強です。

「みとり」

5月にハルをみとりました。慢性腎不全でした。最後の2週間は、食べ物は何も口にせず、体重はみるみるうちに減りました。迷いましたが、強制給餌はしませんでした。ハルが食べない事を選択したのならそれを尊重しようと思いました。ハルは最後まで凛(りん)として、やわらかく、あったかく、お日様のいい匂いがしました。穏やかな死を迎えさせてあげられたことに心から安堵しました。不思議と喪失感はなく、ハルとの生活は形を変えて今も続いている感覚です。

「猫がつないでくれた縁」

ハルやあんみつと出会ったことで、猫に興味を持ち、現在、キャットシッターという仕事をするまでになりました。そして、猫を通じてたくさんの人とも出会うことができました。センターのボランティアも猫仲間に教えてもらいました。動物と暮らすことはその一生を共にすることで人生の豊かさと予想のつかない面白さを教えてもらえているような気がします。ありがとうハル、あんみつ！これからもヨロシクね。(A.N)

あんみつ

仲良く一緒にいる姿は冬限定で貴重！▶